

## 第 11 回 焼津市行財政改革推進審議会

1 開催日時 平成 22 年 5 月 20 日（木） 9：00～11：00

2 開催場所 焼津市役所 本庁舎 6 階 602 号室

## 3 次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 議会及び病院に対する意見書について

(2) 職員の定数・給与等について

(3) 本年度の審議予定について

(4) その他

3. 閉会

## 4 出席者

(委員)

五十右信幸 委員

大石人士 委員（副会長）

小松みゆき 委員

坂本光司 委員（会長）

杉山秀夫 委員

鈴木恒夫 委員

服部敏之 委員

廣瀬武久 委員

村松佳苗 委員

望月誠 委員

山本幸子 委員

良知トヨ 委員

(事務局)

山田 副市長

渡仲 企画財政部長

石野 企画調整課長

西形 人事課長

宮内 財政課長

河守 企画調整課行政改革推進担当主幹

秋山 企画調整課企画調整担当主査

5 議事録 別紙のとおり

<p>1. 開会 (石野企画調整課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいまから、第11回審議会を開催する。</li> <li>・審議会条例により議長は会長が務めることとなっているので、坂本会長よろしく願いいたします。</li> </ul>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の議題、(1)はこれまで議論をしてきた議会改革、病院改革であるが、ほぼまとまったような感じがするため、これを言いつばなしではなく、提言書として当事者へ出すということで、前回議論が終了した。</li> <li>・ではどういう中身のものを出すかということで、一応この文面で、事務局と私と副会長とで調整をし、案を作成した。今日はみなさんに揉んでもらって、問題がなければこれを提出させていただきたい。</li> <li>・それから、(2)にある職員の定数・給与等についてというのは、今回初めてでてくる議題である。人の命にかかわることであるため、おそらく何回かかかってくるのではないかと思う。</li> <li>・今日は現状を聞き、あるいは、不足する資料があれば、皆さん方の方から提示いただいて、次回の時に出してさらに議論を深めるという形になるかと思う。</li> <li>・(3)は、本年度の審議について、あとどういうテーマでやっていくかについて、いくつか素案があるし、まだ手をつけていないものもあるため、それをプラスアルファし、審議会の開催ペースについても議論したい。</li> </ul>
<p>(廣瀬委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の予定であるが、(2)の職員の定数・給与等についてはまだまだ欲しいデータもあるし、(3)の本年度の審議予定についてというところで、一回仕切り直してやっていくという位置づけだと思うので、できたら(2)のところは資料要求的なことをメインにし、どちらかという次回に(2)を回していくというような配置でどうか。</li> </ul>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、今日は11時頃に終わるということでお願いしているので、時間的に全部収まればいいが、大事なことを積み残してしまっはいけないということで、(2)と(3)の順番を入れ替えて議事を進めるということでよろしいか。</li> </ul> <p>(異議なし)</p>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは(2)と(3)を逆にして進めさせていただこうと思う。</li> <li>・では、(1)の議会及び病院に対する意見書について、(事務局が)読み上げの中で、皆さん方にコメントをいただきたい。</li> </ul>
<p>(事務局)</p>	<p>(「議員定数」について)読み上げ)</p>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分かどうかわからないが、大論文というわけではなく、「意見書」であるので、A4の一枚に収めて意見を申し上げるようにしている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一応このような形で市長に、もう一つは当事者である市議会の議長に提出する。郵送ではなく手渡しで行く。</li> <li>・せっかく皆さん方が貴重な時間と労力を割いて議論をしていただいて、その中で、非常に見識のある数字だとは思いますが、19人が妥当という数字を、全会一致で出した。</li> <li>・議会当局としてはご努力をされたと思うが、21人という数字が出てきたことに対し、ああそうですかというわけにはいかないという私たちの思いを文章の中に書いた。</li> <li>・昨日の新聞だったか、浜松市の行財政改革の懇談会で出た意見に対する議会の対応を見ると、市議会議員の数が、確か40の後半（46か47）という数字が出ていた。</li> <li>・浜松市は政令指定都市で、おおよそ80万人強という土地であるから、焼津で逆算して考えると、10人前後になってしまうのではないかという気がしないではない。</li> <li>・どうぞ、ご質問でも、訂正でも、何か意見を言っていたらいいと思う。</li> </ul>
(五十右委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来、議会に意識を変えてもらいたいとか、もう少し真剣に考えてもらいたいということだと思うが、議会に対して、市長というのはどのくらい発言力があるのかというのを考えた時に、市議会に写しを届けるとのことよりも、直接、議会宛てに、議長宛てにした方が良くはないかと思った。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五十右委員から素晴らしい意見をいただいた。しかし、私達審議会の委員というのは、市長から委嘱をされて、行財政改革に関する意見を出してくれということで要請されている。</li> <li>・市長に出して、市長がどう判断するかであるから、一番下を書いてある「なお、ご参考に資するよう市議会に写しをお届けします」というのも、逸脱しているのではないかという感じがしている。</li> <li>・本当は、本文を議長に提出し、市長に写しをとということをやられたかと思うが、残念ながら、依頼された方に出すということで限界がある。</li> </ul>
(望月委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容については問題ないと思う。</li> <li>・ただ、審議会の意義ってなんだろうかいうところに疑問がある。五十右委員と同意見。昨年度3月まで審議してきた大綱だけ作ればいいのか？</li> <li>・議会のこと、病院のこと、職員定数のこと・・・それ以外にも、いろいろところで議題が出てくると思うが、例えば結果的に出てきているのが議会のことであるから、言った→しない→終わり・・・では、なんだったんだという風に思う。</li> <li>・貴重な時間も、当局の貴重な予算も、市民の税金も、多い少ないは別にしておいて、当局が、これだけのメンバーがずらっと揃っていて、なんなんだということ。</li> </ul>

<p>(杉山委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 権限を持たせろというわけではないが、こういう風に努力した、こういう風になった、例えば一つの例としては、議会の関係で、前々回くらいに議会事務局がここに来て説明したが、議会事務局がここに来て意味がない。当事者というよりは、訊いても、ただ答えるだけ。「こういう風に言っていました。そうになりました。」と。自分たちが検討したメンバー（例えば正副会長）と話をすると、彼らにプライドがあるなら我々に来いと、そう言われれば行く。</li> <li>・ 何かそういうものがなかったら、行革している意味がない。審議会をしている意味がない。</li> </ul> <p>・ 今のことと関連するが、これを出しても、望月委員が言われたように、議会が無視すれば終わってしまう内容だと思われる。審議会の権限というのはそこまでなので仕方がないと思うが、そうすると今までの行革審と同じようになってしまっているのかなと、ちょっと半分そういう気がしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そういう意味で、これを市長のところへ出すのだが、ちょっと考えたのは、これを如何に市民にPRするかということ。例えばマスコミを利用して、行革審ではこういう理由でこうしましたということ、もうちょっと議会に対して圧力を掛けるわけではないが、もうちょっと本気で考えてもらうような、市民を味方にするような方法が考えられないかなということも思った。</li> <li>・ それからもう一つ、今のことと関連するが、確かに議員定数については非常に大切なことであるが、それ以外にも議会に関する色々な議論がこの中でされているのだが、それは現実的にどういうように、議会の方へ伝わって、それはどういうように審議されて、どうなったのか、ということをやはり聞かないと、ここで議論したことが何もならないなど、ただ黙ってそのまま目をつむってたらそのまま済んでしまうという、従前の行革審と全く同じレールに乗ってるような気がしてならない。</li> <li>・ そういう意味で例えば議員側が出張するときに、職員が随行して、職員が復命書を書いて、議員が読んで終わりという、そういうのはおかしいのではないかというのが出たと思うが、では今回、そういうことを踏まえて、新年度の予算では例えば職員の随行については廃止されたのか、今までと同じなのか、同じだとすれば行革審でいろいろ議論されたとしてもただ黙って目をつむって「はいどうぞ」と行ってしまおうという、そんなところがやっぱり、望月委員と同じような感覚を持っている。</li> </ul>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、お二方から、内容そのものというよりは、これをどうフォローするかというか、改革に結びつけるかという点で、この文面を超えたところに問題の所在があるというご指摘をいただいた。</li> <li>・ 私は今回この行革というのは初めて入り、白も黒もない、いいことはやる、間違っていることは直すと、その立場を私は行政にも議会にも属さない独立独歩で生きて来ましたし、これからも生きていくつもりだが、もし行革がそうであるならば、まだ、私達の使命が不十分なのかなというような感じがする。</li> </ul>

- ・私は、現実を踏まえるとキリがないと思っている。現実を26人とか何人とかいう形の中で、皆さん方が一生懸命審議した結果、必ずや彼らなりの重石になっているということは事実だと思う。
- ・私の記憶では望月委員が19と最初に言っていた数字に関して、皆で擦り合わせをしてそれになったのだが、議会当局では当初もうちょっと高めの数字を出した（彼ら自身が出した21ではなくてもっと上のところという）、そういう情報が私のところに入っている。
- ・そういう意味では、やはりここでの審議会というのは無視できないという、もし私達が19という数字を出さなかったら、果たして21という数字に落ち着いただけだろうかということを見ると、やはりキリがない。皆さん方のご努力は十分活かされているんじゃないかということを感じている。
- ・もう一つ、今言われた議員の視察に着いていく云々に関しては、議員の定数の問題の前の段階で議論されている。あまり、あれもこれもという焦点がボケてしまうので、前回の中で細かい実務的なことを入れて、今回は本丸である定数について皆さんで議論をして出したということ、それが一つ。
- ・それともう一つは、私たちの思いは、もっと数を少なくすることができるかということ、努力した状況が見えるわけだが、それでも私たちからしたら不満である。
- ・楔を打ったというか、重石をつけたということは実は事実であるが、ただ、時代はスピードが要求されているということを考える。
- ・しかし私達は、別に議会を超えた権限を付与されてるわけではないし、また市長だって議会を超えた権限を付与されているわけではない。おそらくこういうことが一つのきっかけとなって議会対策とか議会対応というか、市長をはじめとして市当局の方はしてくれるだろうし、言わなかったらたぶん、たいして関心持たないんじゃないかということも思われる。
- ・おそらく一番怖いのは市民である。多くの方が、審議会がやっていることの方が、はるかに現実を踏まえているんじゃないかと、市民として議員を減らすという行動を起こすこともできないわけではないわけである。
- ・私達も公務員的な性格を持った立場ですから、あまり私的な活動ができにくいという条件があるから、一つの案は、今仰った、マスコミを含めて、市民に対して問題を提起するような、結果じゃなくて経過を踏まえた、その中で、市民に認知していただくみたいな、努力は必要かもしれない。
- ・市当局は、今言っていたことに対して、当然のことながら、関係する部署に、書類及び口頭で回していると思う。
- ・それが重石になっている、圧になっていることは事実ですけども、一生懸命やっている委員の皆さん方にとっては、言いつばなしではなく、要するに見える形での改革がということである。
- ・それに対してどう行動したかということに関して、それぞれの審議会の席上で設ける必要があるかもしれない。
- ・文面そのものは、ご了解を得られたということであるから、これを一つの案

	<p>として、提案すると。いつ持っていくかということについては、後ほどちょっと議論したいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、これを超えた問題というか、フォローアップの問題等々は、少し、貴重な意見を賜ったので、検討させてもらいたい。</li> <li>・それではもう一つ、病院に対する意見書ということで、配布資料2ということで事務局の方からお願いします。</li> </ul>
(事務局)	<p>(「市立総合病院に関連する意見について」読み上げ)</p>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは、何回も議論した市立総合病院の改革に関する事で、これは別途「あり方検討委員会」というのがあるので、私達、行革審としての意見として出すということである。</li> <li>・皆さん方が議論したことが、大事なことが網羅されているかということ、弱いとか強いとかということも含めて、ご質問とかご感想あればと思う。どうぞ。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、これを見た限りでは、私の取り方では、1番、2番、5番、6番は、題目的なことが書いてある。3番、4番、7番、8番は具体的なことを述べている。</li> <li>・私の提案としては、具体的なことに関して、いつまでに答えを出すという言葉全てを付けていただきたい。3番のマスタープラン、4番の委員の人選、7番に関しても、具体的に検討して、例えば今年度中に答えを出すというようなことを付ければわかりやすいと思う。</li> <li>・その答えがない、ただ検討すべきということでは、どうも流されてしまうので、具体的な内容だけはそうしていただきたい。</li> <li>・あと、7番、8番の位置づけを、できれば1番、2番の方の上に持って行ってもらいたいというのがある。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、廣瀬委員が仰ってくれたのはメリハリを付けてということで、ベースになるところと、各論については仕分けをして書いた方がわかりやすいのではないかと。行動管理すると。</li> </ul>
(鈴木委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かいことになるが6番のところ、やはり地域の利便性のことも入れていただけないかということをちょっと要望したい。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の利便性」という言葉を使っていたが、なるほどなと思う。「地域満足度」でもいいんですね。「スタッフ満足度、地域満足度が高いという点」でもいいのかなど。</li> <li>・あと、廣瀬委員から貴重なご意見をいただいた、順番の問題ではどうか。廣瀬委員の考える順番はどのようなものか。</li> </ul>

(廣瀬委員)	私のだと、お題目的なものを書いたとしたら、次に具体的な行動プランとして、7番、8番、3番、4番というような区切りで書くと思う。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1、2、5、6、7、8、3、4ということですね。</li> <li>・ 他の方、ご意見はいかがか。</li> </ul>
(山本委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5番のところで、私の受け取り方なのかもしれないが、「それゆえ、当病院は、あれもこれもではなく、専門的な分野を強化し・・・」と書かれているが、「総合病院としての機能を維持しつつも」というような文面を少し入れていただきたい。</li> <li>・ 専門的な分野だけに特化してしまうというように私は受け取ってしまったので、やはり市民の総合的な病院として訪れることが多いので、そういうものを残しつつも専門的な分野を強化していただきたいというようにしていただきたいと思う。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山本委員の仰る意味はよくわかるが、逆に、その文面を入れることの難しさが非常にある。何でも残してほしいと、行革とかそういうのは無視して、総合病院だからこれもありあれもありという意見もあるわけで、それに対して山本委員はそこまでは賛成ではないという意見で言ったと思うが、「残す」と言ってしまうと、極端な話、歯医者がたくさんあるのに歯科まで残せと、そういうことを言う人も出てしまう。</li> <li>・ それがあるので、下手に今の文面を入れると困ってしまうなど。行革ができないなという部分が出ると思う。すみません。病院の方がいればそう言ったと思う。そういう争いがある。</li> </ul>
(山本委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私も、「あれもこれも」というのがちょっと引っ掛かるくらいで、廣瀬委員が仰ってることは私もそう思うところはあるのだが、やはりこう、利用者側は総合病院というイメージを抱いていくとなると、確かに行革を無視してまでという風には思わない。</li> <li>・ 私も以前、採算の話をした時に、赤字の部門があるのも致し方がないのではないかという、それがやっぱり公立の病院のあるべき姿でもあるっていう風に発言したことがあった。</li> <li>・ そうすると、あまりにもその色合いを濃くしてしまうと、市民からすると公立の病院の位置づけとしては賛成できないところがあるのではないかと思ったので、今の発言をさせていただいた。</li> </ul>
(良知委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に、廣瀬委員が仰ってることも山本委員が仰ってることもすごくよくわかるが、やはり基本的には廣瀬委員が仰ってる部分が、要は行財政改革である。</li> <li>・ 私がここに係わらなかった時には病院というのには黒字はなかなか無理なん</li> </ul>

	<p>だという意識も多少はあったが、委員としてここに参加させてもらって、会長のお話も聞いたりすると、要は経営努力というのは結構すべきだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その中で、今の山本委員が仰ったことを、うまく実は鈴木委員が仰った言葉の中に取り込んでほしいと思う。地域の利便性ってなんなのかと。</li> <li>・それともう一つ、それと同じレベルできちっとやってほしいのが8番。一般住民というのは、やっぱり、地域の病院があればこれも全部やってくれた方がいいと思うのが普通の感覚だと思う。</li> <li>・だけどそこに、歳入の部分、皆様納めた税金がどれくらい使われているのかということをしきっと情報公開する、説明責任をしっかりとしてもらうことによって、市民も考えることはできると思うので、それをちょっと工夫してほしいなと思う。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あれもこれもが大事だということを書くと、行革の意味が全くなくなってしまうということもある。山本委員が仰るとおり、ひと工夫が必要なような感じを、今、3人のご発言を聞いて思った。</li> </ul>
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰るとおりだと思う。悩むところである。地域の中核病院としての位置は持たなくてはならないと思っている。「地域の中核的病院としての専門的な分野を強化し、かつ・・・連携を・・・」というようにした方がいいのかなという感じがする。</li> <li>・文書の言い回しのところである。意識は皆さんたぶん共通に持ってらっしゃると思う。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、大石委員に言っていたのは、「それゆえ、当病院は、地域の中核的機能を発揮しつつ、専門的な分野を強化し・・・」という感じでしょうか。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中核的機能」であればいいと思う。総合病院としてっていうと、ガラッと意味が違ってしまうので。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、そのような形で。</li> <li>・順番はわかりましたから、私と副会長と事務局で調整をする。</li> <li>・問題は、3番とか4番であるが、難しいことを承知で廣瀬委員仰っていることと思うが、時間軸はどうするか。</li> </ul>
(村松委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ期限付きでお願いしたい。</li> </ul>
(望月委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附則として、この項目としての期限をと加えたらどうか。</li> </ul>
(小松委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もしそういう形で期限を入れるのであれば、8番の情報公開のところも、何に向けて公開するのかというのをきちんとした方がよい。附則でつけるのであ</li> </ul>

	れば。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望月委員から仰っていただいたのは、少なくとも私達が要望していることに関しては、〇〇までに対応を示していただきたい、連絡いただきたい。という文章でいいと思う。それを最後の方に入れるということですね。それぞれについて時間軸を設けるというよりは、それぞれに対してどうしたんだということの回答期限を定める形で努力を喚起するということですね。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その書き方だったら、「検討すべきである」という書き方はしない方がいいと思う。「〇〇から検討するようにしました」という回答が来ても何もならないわけだから。</li> </ul>
(五十右委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方向としては大賛成である。ただ、「あり方検討委員会」があるが、当初、資料をもらった時に、メンバーを見て私もそう思った。経営的な感覚を持った人がいない。</li> <li>・今言われたように、では入れなさいというのは、越権的なものにはならないか？</li> <li>・あり方検討委員会で（議論が）進んでいるわけですよ。で、これはこれで、病院の方向性を考えているわけですよ。とすると、やっぱりこれに関しては、こういう言い方にならざるを得ないのではないか。ここで、専門家を入れなさいという言い方というのはできるのか。</li> </ul>
(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あり方検討委員会は、既に委員会自体は終了している。活動はもうしていない。最初に、「今後の病院経営を検討するメンバーには・・・」と書いてあるため、最後に「・・・委員の人選を再検討すべきである。」とした方がわかりやすいのかなと思ひ、そのようにした。</li> </ul>
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たぶんそれが、既にあり方検討委員会の方に反映されてると思うが、一番最近の改革プランをご覧になったかどうかかわからないが、一番最後に13番目の項目が付けられていて、「点検評価について」ということで、有識者や市民等の外部委員を含めた委員会等を別に設置して・・・ということが書かれている。</li> <li>・それから途中で（我々の意見が）生かされていると思われるのは、「医師に魅力ある研修の提供」というのは当初なかったのだが、それも入っている。入ってはいるが、その実効性というのは確保されていないと思うので、そこはやっぱり、こういうのも出していかないといけないなという気がする。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月末に、あり方検討委員会の結論が出ている。その過程の中で、我々は同時並行的に進めていたから、大石副会長が仰ってくださったように、時として、重石になってるから、入れてくれているわけである。私達が望む方向とはまた程遠いという感じがちょっとするが、でも、文面は、今も生きているという感</li> </ul>

<p>(五十右委員)</p>	<p>じで書いてある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもこういうのを出す時に、この前の大綱でもそうなんですけれども、1番に出てますけれども、危機意識の共有とかね、きれいな言葉が飛び交うみたいな部分がある。</li> <li>・危機意識というのが本当に根底にあるのかどうかというのが、もの凄い大事なことで、僕の知っている病院に勤めている方なんかも、「どうなっちゃうのかね」、「大丈夫かね」みたいな、本当に他人事のように病院運営、これからの病院のことを話しているような状況というのがある。自分たちが何とか頑張っていきたい、何とかしたいというような意識というのは非常に低いのではないか気がする。</li> <li>・職員一人一人が、やっぱり高い意識を持っていかないと、なかなか色んな計画を立てても、なかなかそれが軌道に乗らないというか、そういうのがあると思う。</li> <li>・だいぶ前に、鈴木委員が言われたのだが、本当に意識を変えるというのは大変なのだが、それをやっぱりやっていかないといけない。そして、意識を上げていく方法というのもまたしっかり考えていかないと、言葉だけが飛び交って、綺麗な言葉だけが飛び交って終わってしまうみたいなことがあるんじゃないかという気がしている。その辺を、危機感を、どういう風にみんなが共有するかというのが、一番大きい問題じゃないかという気がする。</li> </ul>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、ご指摘のあったことは、ちょっとまた文章の中に加筆、修正する。</li> <li>・順番の関係も先ほど皆さんの合意を得て、それから5番の「地域の中核的・・・」もご理解を得て、裏の、地域の利便性、満足度のところも、そのようにさせていただく。</li> <li>・今、五十右委員が仰っていただいたことは、危機意識の共有と実行ということだけではなくて、そのためにこんなことをした方がいいのではないかとということで、1行か2行くらい、何かちょっと具体的な行動を示唆するようなことを入れたほうがいいのかというのは、ごもっともなご発言じゃないかと思う。</li> <li>・皆さんに再度お聞きしたいのは、廣瀬委員からありました、納期を直接的に入れるか、回答を定めるかということであるが。例えば3番で、中長期計画の視点の中で、再生プラン（マスタープラン）を作成すべきであるというところ、何年までに作成すべきであるということは現実的には3年でも1年でも、いろいろ私達が事情を踏まえる中で、ちょっと恐いなという気がするのだが。「〇〇までにするようにしました」と、回答を求めるようにすればと思う。しがらみがあるなかで、病院単独で動けないという、法律、制度がある中で、望月委員が仰っていただいたように、それに対してどう対応したか、どう努力したかという、それをいつまでに回答してくださいという形をとった方が、現実を踏まえた中でのことになるのかなということを思いながら、廣瀬委員ご不満かもし</li> </ul>

	<p>れないが、各委員の考えも反映されるかなと思う。どうですか。いつ頃までにすればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当然、このことに対して、我々審議会の事務局が、半年後か1年後かにこのことについてはこうであったということ意見を徴収して、ここでご発言をしていただくということではないか？それは、どれくらいにすればよいか？</li> <li>・できれば、6月の早々に、市長に出そうということで、今、私とか、副会長とか、市長、病院長、議長とかと日程の調整をしているところだが、細かいところは変えて皆さんにメール配信する。ただ、時間のところをどうするか、半年か、1年か？2年というわけにはいかないだろう。</li> </ul>
(望月委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「年内」とか。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役所の事務の方にも係る。役所の方の回答があった方がわかりやすいかと。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長、予算の関係にも反映するわけですね。その辺のことからすると、逆にリミットというのとどれくらいになるのか。</li> </ul>
(山田副市長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギリギリで年内。早ければ早いほどいい。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは一番最後のところに、年内にこの意見に対するご回答をいただきたいということで締めるということで、市長の方で関係部署に回していただいて、文書でもって、この場でご回答いただけるのではないかとということであるから、言いつばなしにならないという歯止めだと思う。そんな形でいいですか。</li> </ul>
(鈴木委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2番目の2行目、「病院職員の仕事や、その改革、改善・・・」とあるが、私、新橋の〇〇の本店にいました時に、職員の仕事ということは、職域あるいは職場を改革・改善することによっておのずから変わってくるということを感じた。自分が改革の委員をやって、そんな経験があるので、その辺をちょっとこういう風に表現を変えてもらったらどうかなという気持ちがある。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、どんな感じになるのか。</li> </ul>
(鈴木委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病院職員の仕事や、その改革」ではなくて、「病院職員の職域または職場の改革」。職域または職場を改革することによって、職員の仕事も変わってくるので、職場を変えようという意識をまず持たせること。というような表現でどうか。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この方がよくなったと思う。よろしいですか、今のご発言の内容でまとめて、皆さん方に連絡をさせていただいて、両方とも市長の方へ提出する。議会改革の方は写しを市議会の方に持って行くということで、今の予定では、6月3日</li> </ul>

	<p>に、議長、市長、病院長の予定が空いているということである。病院長には直接渡すというよりは同席していただき聞いていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もしかしたら（6月3日が）変わるかもしれないが、一応、私と大石副会長とで対応させていただこうということで、また、報告はこの場でさせていただこうと思っている。6月3日の午前中お渡ししようと思っているが、自分もという方がいらっしゃいましたら事務局の方へ言っていただきたい。事務局、8時45分ですか、9時ですか？</li> </ul>
(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時45分で調整している。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8時45分で調整をとということで。ご無理なさらなくてもいいが、もし同席される場合は同席していただけたらと思う。よろしいですか。</li> </ul>
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7番目のところだが、全部適用する理由をちょっと入れないとまずいかなという気がする。私自身、一部適用から全部適用になると、どの辺のメリットがあるのかというのが十分わかっていない部分があって、もし、廣瀬委員その辺がお分かりになるかと思うが、ちょっとそれを入れた上でないと、一般の市民が読んだ時に、何かわからないので、そこだけ加える必要があるかなと思う。</li> <li>・今まで議論に出ていたのも、全部適用していくことで意識も改革するし、経費の問題なども変わってくるということで、小項目のトップに持ってきていたいというのはそういう意味だと思う。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立性、独立性ですね。「病院の独立性とか自主性を高めるためにも、地方公営企業法の全部適用を・・・」と、そんな感じか。</li> </ul>
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識改革ということもあったんで。</li> </ul>
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番のところに繋げるのであれば意識改革も入れて。</li> <li>・自立的な経営が可能になるという言葉など、その辺も入れたらどうかと。</li> <li>・磐田は一昨年から全部適用でやっているんですね。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「病院経営の自主性、意識改革を高めていくためにも、地方公営企業法の全部適用を検討すべきである。」というような、そんなイメージでよろしいか。</li> <li>・では、今日のこれを訂正して皆さん方に送る。事務局間に合うか？</li> </ul>
(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間に合わせるように努力する。修正の上、皆さんにお送りさせていただく。</li> </ul>
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次の議題、本年度の審議予定をどうするかということで、さっき私は、テーマとペースということで話をさせていただいたが、皆様方に、ご意見を受け取りたいと思う。</li> </ul>

・まず、テーマに関しては、職員の定数とか給与等であるが、これについて何回か掛るんじゃないかと思う。重点的にやっていくというのは当然だと思う。

・それからこの審議会が始まる時に、市民のアンケートをとって、事務局は非常に誠実に逃げることなく重要なものから順番にやってきたわけだが、私の記憶では、その中でまだやりきれていないというのが、旧の大井川町の地域資源活性化センターがある。

・あとは皆様方各位が、どんなことを今年度、あとどんなことをテーマとしてご意見があれば寄せていただきたい。

・私がちょっとアイデアとして、お話しさせていただくと、これは市の方の全面的な協力がなければできないのであるが、市民ももちろん自分たち毎日生活している中で、ここおかしいとか、こうやってほしいとかいうことの意味は当然あるわけだが、しかし行政のいろんな仕組みであるとか、あるいは毎日行政の仕事をやってるわけではありませんから、わからない。

・一番分かっているのは行政、役所の幹部職員というよりは日頃、日常におおじいちゃんとかおばあちゃん、母子家庭の方とかですね、そういった方に接触している方という方といいますと、これは行政の第一線の職員である。

・その方が日々仕事をする中で、これおかしいんじゃないか、これこうすればいいんじゃないか、うちの課でやるよりはこっちでやった方がいいんじゃないかとかいうのとか、これもう必要ないんじゃないかとか、いろんなことを一番知っているのは職員の方だから、この町を良くしたいという思いは私達より強いかもしれない。

・その意味で、第一線の公務員の方に、職域というか自分の職を超えて、市民感覚として出していただいて、それをやるやらないはともかく、それをひとつのたたき台として私たちが考えたものと第一線で日常的に接している方と、その両方で優先度が出ているのであれば、それをやるべきではないか。一番良く知ってるのは公務員のはず。

・当然、市の人事課を通してやるのか、あるいは我々の行革審の事務局のある企画調整課の方でやるのかはともかく、ひとつのアイデアとしてどうか。どうぞ皆さん方からも言っていただきたい。

・あと、回数の問題だけ言いますと、昨年はほぼ毎月のペースで、非常に緊急、重要、放っておけないと、また、合併の絡みがあって、早急に調整しないといけないということがあって、事務局実は大変だったと思う。

・私も、いろんな町に行革審やってますけれども、正直こんなにも頻繁に、熱烈にやるってのは見たことないというくらい、委員各位も、事務局も、頑張ってくださいという感じがしている。

・今までのペースはほぼ月一回ですが、基本的には、2か月に1回くらいでいいのかなと思っているが、当然、緊急の課題が出た場合には緊急招集のような形で、それは市長から早急な答申を求められることもありますから、それはその時に動きますけども、こうして定例的に集まるのは2か月に1回くらいでいいのかなと。

	<p>・時々テーマによっては当然変えますけれども、原則論的には、テーマについては公務員の方から、バーっと全体に振ってもらって、その中から、一番関心の高いものを検討しよう。私達は私達で出すと。ならば7月～8月頃までに方向が出てくるのかなと。それが私のひとつアイデアである。何かご質問、ご意見があればお願いしたい。</p>
(鈴木委員)	<p>・今まで一年掛けて、我々審議をさせていただいて、提言も出しているわけである。そういうものについては、本庁なりあるいは関係部署で、どんな形で捉えられているのか、我々知りたい気持ちがある。そういう意味で、先ほど望月委員がご発言いただいた内容と全く一緒なんですけど、例えば、各職場で取り組んでいただいているものがあれば、どんな状況なのか。あるいは、我々の提言がどんなところで活かされているのか。あるいはこれから、どんな形で取り組もうとされているのか、もしそういうようなものがあれば具体的に、なるべく詳細に、文書で出していただけるような、お願いができないかなと。</p> <p>・もう既に、いくつか話し合いの中で、病院のこともしかり、議会、議員定数のこともしかり、こうしたことも提言しただけでなく、その事柄の歩き方、あるいは行政の方でどのように感じ取っていらっしゃるのか、あるいはどういう意図で取り上げようとしているのか、そうしたことがわからないと、我々も、いくら素晴らしいテーマをいただいて重要な時間を使ってここで云々しても、何か生きてこないような、個人プレーですけれども寂しいような、しないわけでもないで、その辺のところを要望として出させていただきたい。</p>
(村松委員)	<p>・人事のことですが、担当が2人とも代わった。どういうことで、こういう風に前年度の担当の方と変わってしまうのか。私達からすると、結果が出たところで変わっていただくなりいいんじゃないかなと思うのだが、こういうように突然変わってしまうのは、何かちょっと、本当に立場からすると、何かもったいないという思いがある。</p> <p>・それと、それまで培ってきた担当の方の思いもあるだろうし、それをやっぱり終わった時点で、ちゃんとして代わっていただいた方がいいなと感じた。</p> <p>・それと、役所における専門性ということがありますがけれども、それも専門性につかない間に代わってしまうのは本当にもったいなという気がしているので、その辺はどういう風に人事というのは考えてらっしゃるのか知りたいところである。</p>
(坂本会長)	<p>・今、村松委員の方から、私たちからすると、この1～2年同じ釜の飯を食べて、喜び、悲しみ、苦しんできたという方々で、最後の最後までということも一つの願いかもしれないが、もう一つの願いは、一生懸命やってきた二人もやっぱり人生があって、当然、希望を取ったり、その人の将来のことを考えて人事も異動していると思うので、私達が独り占めするわけにもいかない。</p> <p>・新しいテーマでやるのはいいけども、言いつばなしではなく、やったことに</p>

	<p>対しては必ずフォローアップをというか、審議会の一つの議題として新しいものと、古い議題（提案したことに対して）どうかということで、進んでいけばいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んでなければそれはご意見を申し上げることがある中で、必ずそれは、新しいテーマプラスアルファで、提言したことに対してフォローするような、あるいはPDCAというわけであるから、改善改良するというような項目、議題をひとつ設けるべきではないかと。ごもっともじゃないかと思う。</li> </ul> <p>（杉山委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで一年掛けて僕らは行政改革大綱を作ってきたわけであるが、その後であるが、実施計画というのが出来て、それによって具体的になっているということでみていて、前回、実施計画らしきものが出てきたのですが、この扱いを具体的にどうするのか。</li> <li>・この前まで大綱を作って、この中で例えば市民目線に立った対応、職員の意識の改革を図ると書いてあるが、それが結果としてどういう風に反映されたのか、それぞれ職員が持っている事務をみんな見直して、今現在はこういう大綱が出たので、既に市民目線に立った対応ができていると考えればいいのか、それとも具体的に今度は実施計画の中でそれぞれの事務を見直して、それぞれ問題になっているのはこういうことで、これを具体的に何年間か掛けてやっていくというような格好になるのか、もしそうだとすると、それは具体的にどういう風に押さえていくのか。</li> <li>・それから実施計画で出てこないものがあるわけだが、そういうものは大綱の中で、網の目からどのように、解消されてもう大丈夫であると、あと問題が残っているのは実施計画が出てきたものであると、いうことであれば、これを具体的にどうなのかということで、それから漏れたものが本当に実際ないものなのかどうかということが非常に疑問であるため、各部なりでもっている事務で、市民目線に立った対応というのが具体的にしているのかどうかを、検証していく必要がなくていいのだろうかという気がしている。</li> <li>・具体的には実施計画というのをを出していただき、その中で重点的にやるということになってくると思うが、全体的に見て、網の目にかけて一回やっておかないと、いつも網の目から大きいものがどんどん抜けてきて、ただ実施計画は項目が出てくるので、その項目〇が付いてくると全部オッケーという印象になってしまうので、それはちょっと、せっかくいいメンバーが出ているわけなので、そういう例えば住民目線ということで、一杯いろんな問題が出てくると思うので、それを具体的に整理するというのが必要なんじゃないかと思う。</li> </ul>
<p>（望月委員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほど会長が仰っていた市民の声というところで、ちょうど今資料があるのだが、そのいくつか、アクアスの問題とか、病院、議会の問題がある。</li> <li>・その中で、上位にあるので、2番目に、市役所の部局ごとの主要事業の再点検、再評価、改善。要は今でいう仕分けという意味なのかなと思う。</li> <li>・そうすると、会長が提案されている2か月で1回でいいのかと。もっと細か</li> </ul>

<p>(鈴木委員)</p>	<p>くなってしまって、行革と並列で「仕分け人グループ」みたいなものを作って、こういう市民のご意見に答えていくのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行革自身がそれをやってるといって大変もない。だからもっともって時間なども掛るであろうから、もっと違う組織なりグループを作るべきなのか。</li> </ul> <p>・我々の委員というのは平成21年6月6日の静岡新聞の中に、静岡新聞の原田誠治先生が、「平成の大合併には幕が下りたけれども、合併を住民の手で総括せよ」というような記事を読み、ここにちょっと用意してきているのだが、そういう目線も大事だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんからポイント、ポイントいろんなご意見が出ているが、やはり真の評価というのは市民が下すのであって、そのお手伝いをするのも我々行革審の大事な仕事ではないかなと思う。</li> <li>・3,200程あった市長が全国で1,700に半減したということも載っているし、私も、大井川という地域性を考えたときに、大井川の伝統的な良さ、そのエリアに残された大切なもの、そうしたものが一日一日なくなっていることを実感している。本当にそれでいいのかなと。そういうような観点から、やはりそうした総括を市民目線ですということを取り入れていただきたいという感じがしている。</li> </ul>
<p>(望月委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かいことであるが、先ほど良知委員が病院に関するところで、病院でどれくらい税金が使われているのか、中核病院として必要な部分云々という話があったが、市民の皆さんが、よく広報誌に、歳入歳出に大きく民生費とか土木費だとか云々出ますよね。それはもう何億、何十億という単位で、全然、何なのかわからない。</li> <li>・ではなくてもっと細かく、例えば、図書館で本一冊どれくらいのコストが掛っているのか、何かこう非常にリアルな情報というのを開示するように、行革審で議論し提言していきたい。</li> </ul>
<p>(山田副市長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、総務省の方で、行政コストというのが出ている。まだ具体的にいつからコストを計算して発表するということまでは行っていないが、私も興味があるので、内々調べている。今、望月委員から図書館の図書一冊の貸し出しにいくら掛っているかということだったが、図書館の職員の人件費、光熱費等全部ひくると、大井川図書館まで含めると、一冊貸すと、実は219円掛っている。</li> <li>・例えば、港のところに漁業資料館がある。これは元々漁協がもっていたもの。経費は半分漁協がもって、半分市が補助金を出している。入場者数で割ると、一人1,800円掛っている。そのうち、市の負担が900円ということである。</li> <li>・例えば、公立の保育所は一人いくら掛っているか、民間はどうか、ということも、内々やっていて、いずれ市民の皆さんには公表していきたい。</li> </ul>

<p>(望月委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前から公立幼稚園を廃止するという話が出る。確か年間40～50万円、園児に税金が掛っている。そうすると反対を食らって、焼津には4つしか園がないわけで、だからこれだけ財政が切迫してくると、そういう行政コストを出して、市民に判断してもらうような情報として（開示する）。</li> <li>・でない、先ほどの病院もそうだし、中核都市として必要だよということをもまず認識してもらうとかね。どういう風にコストが掛っているのか、ということがわからないと、それから必要か不必要かという判断もできない。</li> </ul>
<p>(良知委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身もそうであるが、改革の視点というのはそんなにたくさん無いような気がする。まず、意識改革の中に市民目線を持って行こうというのがあるのだが、意識改革というのはもちろん行政の方はしてほしいし、それから市民も意識改革をしなければいけないということだと思う。</li> <li>・市民が意識改革をする時にどうするかといったら、これは行政がどういう風に、どれだけの本気度があって、情報の公開の仕方を工夫をし、そこに説明責任を持っているかと。</li> <li>・例えば、ある町で、税金がどういう風に入ってきて、どういう風に使ってきたのかという中で、こういうサービスは皆さん喜ぶだろうけども、これはこんなにもお金がかかっているんだよというのをきちっと説明しながら、では市民とどの部分で協働すれば、そのサービスはもっと安い方法で残すことができるということであるから、一番私が考えているのは、要は情報公開、それから説明責任って当たり前のごとく出ている言葉で、じゃあ具体的にどうやっているのかと。</li> <li>・例えば行革のいろんなことを打ち合わせしたというのをホームページから見るができるのだが、あれを例えば全部見る人なんていないと思っている。そうすると、私なんかあちこちを見ると、浜松市なんか非常にわかりやすく、パッと要点を絞っている。誰が作っているのかと見ると「行革審議会」とあるので、その辺が出しているのかなと。非常にわかりやすい。これはやっぱり市民の意識改革という部分で、とても大切なことだと思っている。</li> <li>・やはり意識改革というのは双方向からしなければならないのだと。そこに、どんな対処の仕方をしているかというのをもう少し知恵を絞っていくというのは必要かなと思っている。</li> </ul>
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今最後に良知さんが仰ってくれたのは、浜松の例を言っていたのだが、浜松の行革審は2期目に入っていて、全面公開型でやっており、常に100人～150人くらいの市民が、会場に押し掛けて審議会の様子を聞いている。火花が散るようなことが行われているが、いいか悪いかはともかく、市民の意識を高めるところは部分的にあるかと思う。</li> <li>・せっかく大綱を作り、実施計画は非常に遅れてしまったというのは、これは私達にも罪があるのであって、かなりいろんなご意見を言いまくりましたから、</li> </ul>

	<p>その中で、各課との調整に手間暇掛った中で慌てふためいたというのがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私達は、大綱を作るためではないのですから、市民満足度が高まるようなまちづくりの一助になればということですから、実施計画に関して、重大な関心を払うべきだと思うし、言いつばなしではなく、私達が出した意見に対してのフォローアップはもちろんですけれども、実施計画そのものに関して、議題の一つとして、毎回毎回入れるようなことも大事なのかなということもお聞きした。</li> <li>・あと、情報公開の話は、副市長の方からも補足をいただいたが、市の方でもそのように考えているということで、市の広報、広聴を超えた問題だと思うが、あるべき考え方というか進め方、会議のしかたも含めて、議題の一つとして考えられる。</li> <li>・あと、焼津市と大井川町が合併して総括という話をされましたが、もし、問題があれば、そのことに対してできる限り改善しなければならないし、合併してさあ終わりという、実質的には昔の大井川町の方からすると、いろんな考えもあるということであるから、その辺のことも総括という話の中で検証するということも、行革のテーマとしてあってもいいんじゃないかということがあった。</li> <li>・今日、本年度の審議予定に関してたくさん出たが、いずれにしても次回は、今日やるつもりだった職員の定数・給与等についてということで、今日皆さんから出た意見を整理して、やり方含めて進めていきたい。</li> <li>・では、私が最初に出した、公務員に対しての一市民としての立場でアンケートをとった方がいいと思うがどうか？</li> <li>・これは市の方に頼まなければならないが、事務局、これ課長のところでやってもらうというのは乱暴か？</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期待されるものが出てくるかどうかはわからない。個人の判断によるので。</li> </ul> <p>(坂本会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もちろんそう。個人の自由であるから。若い人は言いたいことは一杯あると思う。</li> <li>・それでは、案を作ってみる。無記名で、部署も無記名で。市民的な立場で書いてもらう。</li> <li>・事務局、ちょっと負担をかけてしまうが、関係課との調整も必要だと思うので。では、本年度の審議予定についてはそのような方向で。</li> <li>・それから、職員の定数と給与について、人事課長も見えていただいているので、その中で、入ることができなく申し訳なかった。今日はすみませんが、あらためてやっていただくということで。今日の資料のほかに何か欲しいバックデータがあったら、今本人いらっしゃるので言っていたきたい。</li> </ul> <p>(人事課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1の概要説明。</li> <li>・当日配布資料3の概要説明。</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"><li>・当日配布資料4の概要説明。</li><li>・当日配布資料5の概要説明。</li></ul> <p>具体的には、定員適正化の推移を中心に話をさせていただくことになると思う。不足がありましたら言っていただくようお願いしたい。</p> <p>(坂本会長)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ありがとうございました。本当だったら20分～30分掛けてお話しいただくことになっていたが、詳しくは次回に来ていただいてご説明いただくと。</li><li>・今日はこれで閉めますが、どうしてもこの資料欲しいというのがありましたら、人事課長少し残っていただいて、御注文に答えていただきたい。</li><li>・すみませんが、その他のところに入りますが、次回の日程は6月29日の10時からで、603号室で開催する。職員の定数・給与等ということでそれがメインと。もう一つは、今年度の議題のこと、もしお時間があれば、職員からのアンケート調査があつて議題について詰めていくという形になるかと思う。</li></ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・以上をもちまして、第11回の行財政改革推進審議会を閉会いたします。お疲れ様でした。</li></ul>
--	--